

# スガウェザリング技術振興財団 第37回表彰・第38回助成 贈呈式

(公財)スガウェザリング技術振興財団では、毎年ウェザリングに関する研究について、著しい成果を上げられた方の表彰・研究助成を行っています。今年も多数の応募の中から厳正な審査の結果、第37回表彰2件、第38回助成先5件を決定し、今春、贈呈式が盛大に執り行われました。

平成31年4月24日(水) 11時20分～12時 東海大学校友会館



開会にあたり、須賀茂雄理事長より「最新のウェザリング技術に常に触れ、世の中に最新の情報を発信していくことが、“優れたウェザリング研究者の育成”のために非常に重要であると考えております」と挨拶。

次に相澤益男審査委員長(東京工業大学 名誉教授・元学長)より選考経過と各受賞者の受賞内容についての報告があり、続けて表彰並びに助成の贈呈が行われました。

増子宏 文部科学省 大臣官房審議官より、「皆様の業績は各種材料や製品など、耐劣化性あるいは耐腐食性の向上を図るウェザリング技術に関して、卓越した成果を上げられ、今後の発展に大きく貢献されることが期待されるものである。スガ財団が長年にわたりこのようなウェザリング技術者の表彰・助成を続けていることに、敬意を表する」とご祝辞を戴きました。



須賀茂雄 理事長



相澤益男 審査委員長



増子 宏 文部科学省 大臣官房審議官

## <第37回 スガウエザリング財団賞表彰>

### ■ 科学技術賞 ■

大中 隆 (写真左)  
A.A.K. カラーアルマイト株式会社 技術顧問  
日野田悠二 (写真右)  
一般社団法人軽金属製品協会 テクニカルアドバイザー

アルミニウム表面処理関連の研究及び  
国際標準化



長年にわたりアルミニウム表面処理技術および加工技術に従事し、同業界の指導的役割を務め、ISO/TC79/SC2(軽金属及び同合金/アルミニウムの陽極酸化皮膜、有機塗膜及び複合被膜)の国際規格制定においてその卓越した知見と技量により各国をリードしてきた。具体的業績は次の通り。

①長年休眠状態にあったISO/TC79/SC2の活動を日本が主導して再開し、管轄する21のISO規格の見直しを実施し、日本の最新実情に合わせた。②ISO/TC79/SC2のタイトルとScopeの見直しを断行し、防食性能に優れる陽極酸化塗装複合皮膜のISO規格を日本が主導して新規に制定した。③環境負荷軽減のために注目されている粉体塗装を新規に各国と連携して国際標準化を進めるなど地球環境配慮の取り組みをしている。



### ■ 科学技術功労賞 ■

大谷良行 (写真左)  
株式会社UACJ R&Dセンター 第二研究部 表面改質研究室 兼 分析化学研究室 室長  
児島洋一 (写真右)  
株式会社UACJ R&Dセンター 第一研究部 部長

アルミニウムの耐食性評価における酢酸の役割



長年にわたりアルミニウムの耐食性研究を行い、アルミニウムの腐食促進試験における酢酸の役割に注目、慣例的に使用されてきた腐食促進剤である酢酸の効果を電気化学的に明らかにし、腐食試験結果の再現性向上に大きく貢献した。更に、防食設計のための自然電位測定方法の原理解明研究を行い、得られた成果の展開として、業界規格(LIS)、ISO規格などの標準化に取り組み、アルミニウム業界へ貢献している。



<第38回 助成>

■研究助成■

池上和志  
桐蔭横浜大学  
医用工学部 臨床工学科 准教授  
**放射線検出用の有機無機  
ペロブスカイト光半導体厚膜の耐久性評価**



溶液からの再結晶法で合成する光半導体結晶のハロゲン化鉛系ペロブスカイトを、X線センサ等への応用を目指し、耐久性と感度を両立する組成を見出すことを目的とする。光半導体結晶の粗大結晶の再結晶法の確立、また合成した結晶を微粉末化と熱プレス法を組み合わせた数ミリのサイズの厚膜を作製し、高温高湿度、また低温環境での耐久性を明らかにし、将来のセンサ応用についての実用性を評価する。

斎藤英純  
神奈川県立産業技術総合研究所  
川崎技術支援部  
太陽電池評価グループ グループリーダー  
**有機系太陽電池の  
耐久性評価技術の開発**



色素増感太陽電池、有機薄膜太陽電池、ペロブスカイト太陽電池等の有機系太陽電池は、軽量、フレキシブル、低製造コストというシリコン太陽電池にはない特性を有しているため次世代太陽電池として注目されているが、シリコン太陽電池とは構造が大きく異なるため、IECやJIS等で標準化されている耐久性評価法がそのままでは適用できないという問題がある。このような問題を解決するために、本研究では有機系太陽電池の新しい評価法を開発することを目的とする。

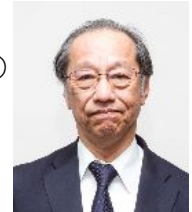
廣畑幹人  
大阪大学 大学院工学研究科  
地球総合工学専攻 准教授  
**高経年鋼橋におけるリベット継手の  
防食塗装耐久性評価**



現存する経年鋼橋は、交通インフラとしての有用性のみならず歴史的構造物としての価値があり、構造物の美観に配慮しながら管理、保存していくことが求められる。経年鋼橋の継手部にはリベットが多用されているが、リベットの腐食が進行した場合に、補修を行い、防食塗装を施す必要がある。しかし、リベット継手の防食塗装の耐久性については不明な点が多い。本研究では、リベット継手の腐食進行メカニズムの解明およびリベット部の防食塗装耐久性評価を目的とした一連の調査ならびに実験的検討を行う。

■国際会議助成■

林重成(代理 ステンレス協会 土居大治)  
北海道大学 大学院工学研究院  
材料科学部門 エネルギー材料講座 准教授  
**ISO/TC156  
第31回年次総会 2019(札幌)**



ISO/TC156(金属及び合金の腐食)は、各種金属に共通な腐食試験方法あるいは個別金属でもそのTCに耐食性を扱う部分がない場合、腐食試験方法の規格化を担っている。その総会は年一回アジア、アメリカ、欧州の持ち回りで開催し、課題解決の議論、提案を行っている。日本からの提案も多数であることから、この機会にそれらの提案の STEP を促進させるチャンスとして、2019年度に日本(札幌)にて開催する。

八重真治  
兵庫県立大学  
大学院工学研究科化学工学専攻 教授  
**The 3rd International Symposium on  
Anodizing Science and Technology (AST2019)  
(第3回アノード酸化の科学と技術に関する国際会議)**



アルミニウムをアノード酸化して耐食皮膜を形成するアルマイト処理が1923年に日本で発明され、以来、我が国はアノード酸化の科学技術で世界をリードしている。電解コンデンサでは日本企業が世界を先導し、ナノテクノロジー分野においても先駆的成果を上げている。近年、多孔質アルミナの規則化、鉄やステンレス鋼への多孔質皮膜形成、シリコンの多孔質化など、大きく発展している。本会議では、アノード酸化の学術の発展と研究者・技術者の相互交流を目的とする。

(肩書きは受賞当時・敬称略)



丸山俊夫評議員



受賞者代表 大中隆氏



助成者代表 池上和志氏



里見多一評議員

<記念祝賀会>

引き続いての記念祝賀会では当財団の丸山俊夫評議員(東京工業大学 名誉教授 元副学長)がご挨拶、続いて受賞者を代表して大中隆氏(A.A.K. カラーアルマイト株式会社)、助成者を代表して、池上和志氏(桐蔭横浜大学)が挨拶をし、里見多一評議員(日本パーカラライジング(株)代表取締役会長)のご発声で乾杯をしました。



記念祝賀会の様子

## 関連団体のお知らせ

### ■スガウェアリング技術振興財団■

## ＜グローバル大気腐食データベースの構築＞

### 第3巻を発刊：各種金属材料の屋内暴露試験データを収録

本書は、平成25年度より当財団腐食研究委員会プロジェクト委員の石川雄一氏、須賀茂雄氏が中心となりまとめたものです。各国の研究機関や公設試験機関をはじめ、さまざまな協会・学会・団体で実施されてきた金属材料の屋内暴露試験（炭素鋼、亜鉛、銅、銀、ニッケル、すず）の腐食データを、一元的に抽出したデータベースで、本年3月に第3巻として発刊しました。なお、第1巻は炭素鋼の屋外暴露、第2巻は亜鉛・銅の屋外暴露のデータベースです。

【定価】第1巻・第2巻：各10,000円(税込)、第3巻：20,000円(税込)

【編集】公益財団法人 スガウェアリング技術振興財団 腐食研究委員会  
申し込みは財団ホームページ(<https://www.swtf.or.jp>)をご覧ください。



## ＜スガウェアリング学術講演会＞

本年も、「屋外暴露と促進試験」をテーマに下記の日程で開催いたします。

プログラム詳細が完成次第、財団ホームページ(<https://www.swtf.or.jp>)で参加申し込みの受付を開始いたします。

第69回〔東京〕日時：2019年10月24日(木) 10:00～16:50 会場：アルカディア市ヶ谷 3階富士の間

第70回〔大阪〕日時：2019年10月29日(火) 10:00～16:50 会場：大阪国際会議場 12階特別会議場  
(グランキューブ大阪)

本社 〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-14  
光研究所 〒160-0022 東京都新宿区新宿6-10-2  
日高・川越工場 〒350-1213 埼玉県日高市高萩1973-1  
名古屋支店 〒465-0051 愛知県名古屋市名東区社が丘1-605  
大阪支店 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町3-23  
広島支店 〒733-0033 広島県広島市西区観音本町2-12-11  
Suga Europe 11 Lovelace Road, North Oxford, Oxfordshire, OX2 8LP, UK

tel 03-3354-5241 fax 03-3354-5275  
tel 03-6867-0810 fax 03-6867-0811  
tel 042-985-1661 fax 042-989-6626  
tel 052-701-8375 fax 052-701-8513  
tel 06-6386-2691 fax 06-6386-5156  
tel 082-296-1501 fax 082-296-1503  
E-mail: sales@sugatest.co.jp

スガ試験機株式会社  
Suga Test Instruments Co., Ltd.

[www.sugatest.co.jp](http://www.sugatest.co.jp)  
[www.suga-global.com](http://www.suga-global.com)